

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 地歴 科目 日本史探求

教科：地歴 科目：日本史探求 単位数： 単位

対象学年組：第 2 学年 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：（詳説 日本史（山川出版社））

教科 地歴

の目標：

【知識及び技能】

日本史展開に関わる諸事象について、世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解し、日本史に関する様々な情報を調べまとめる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】

日本史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察し、効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

日本史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、日本や他国の歴史・文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史探求

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日本史展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から日本史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	日本史の展開に関わる事象の意味や意義、文化の特色などを、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察し、歴史課題の解決を視野に入れて、考察、構想し、それらをもとに議論したりする力を養う。	日本史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養い、日本や他国の歴史・文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 文化の始まり ①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 2 農耕社会の成立 ①大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ②集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ③原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。 1 古墳文化の展開 ①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	・指導事項 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 ・教材 ・教科書、図表 ・一人1 台端末の活用	【知識・技能】 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 渡来伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し考古学資料から得られる情報を読み取る技能を身につけている。 国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 考古資料をもとに、旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、中国文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 日本列島内外の歴史書・金石文、考古学資料などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成についての考察を通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。 日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化を明らかにしようとしている。 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じて、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	16
			定期考査		○	○
2 飛鳥の朝廷 ①ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ②飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。 1 律令国家への道 ①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。 2 平城京の時代 ①律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ②平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。	・指導事項 第2章 古墳とヤマト政権 2 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 4 律令国家の変容 ・教材 ・教科書・図表 ・一人1 台端末の活用	【知識・技能】 推古朝の政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。 隋・唐など中国王朝との関係に着目して、東アジア情勢との関係、律令体制の成立過程などを理解している。 大宝律令・養老律令の整備について、遣唐使派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。 【思考・判断・表現】 大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。 律令成立期の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。 盛唐文化の受容を踏まえ、国史など編纂・仏教美術の展開、鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。	○	○	○	20
			定期考査		○	○

	<p>1 摂関政治</p> <p>①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。</p> <p>②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。</p> <p>2 国風文化</p> <p>①大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。</p> <p>②摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。</p> <p>3 地方政治の展開と武士</p> <p>①律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。</p> <p>②地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。</p> <p>1 院政の始まり</p> <p>①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。</p> <p>②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>①政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。</p> <p>②古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>定期考査</p>	<p>・指導事項</p> <p>第4章 貴族政治の展開</p> <p>1 摂関政治</p> <p>2 国風文化</p> <p>3 地方政治の展開と武士</p> <p>第5章 院政と武士の躍進</p> <p>1 院政の始まり</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>・教材</p> <p>・教科書・図表</p> <p>・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>藤原北家の権力掌握過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。</p> <p>大陸文化の定着を前提として、平安時代に日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。</p> <p>地方諸勢力の成長に着目して、律令制度の実態や地方の開発、治安維持、荘園の発達などについて、その特色や変容を理解している。</p> <p>荘園公領制の成立を、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。</p> <p>平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>国際関係の変化を踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達など、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。</p> <p>文献資料を活用して、国司支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、表現している。</p> <p>武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。</p> <p>武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に</p>	○	○	○	19
2 学期	<p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。</p> <p>②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。</p> <p>2 武士の社会</p> <p>①承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。</p> <p>②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。</p> <p>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。</p> <p>②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。</p> <p>4 鎌倉文化</p> <p>①庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</p> <p>②伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進化した背景を考察する。</p>	<p>・指導事項</p> <p>第6章 武家政権の成立</p> <p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>2 武士の社会</p> <p>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>4 鎌倉文化</p> <p>・教材</p> <p>・教科書・図表</p> <p>・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>諸資料を読み取り、鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。</p> <p>承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から情報を読み取り、理解している。</p> <p>宋・元朝・ユーラシアとの交流に着目して、蒙古襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。</p> <p>公武関係の変化やユーラシアとの交流に着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料をもとに、根拠を明確にして表現している。</p> <p>公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。</p> <p>公武の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。</p> <p>鎌倉時代の産業の発展や商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発展とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>鎌倉時代の宗教や文化にみられる特徴について、主体的に追究しようとしている。</p> <p>宋・元との交流や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流を多面的・多角</p>	○	○	○	21
				○	○		1